

講師のプロフィール

くま がい 熊谷カネ



北海道様似郡様似町生まれ。

アイヌが多く居住する岡田コタンで、熊射ちでありカムイノミの伝承者であった父・岡本総吉、歌謡や口承文芸の伝承者として活躍した母・岡本ゆみの末娘として生まれ育つ。

1965(昭和40)年に結成された北海道ウタリ協会様似支部には発足時から参加し、特に1983(昭和58)年に発足した文化保存部(様似民族文化保存会の前身)で長年アイヌ文化の伝承活動に取り組み、現在は様似民族文化保存会会長を務める。

1997(平成9)年より様似アイヌ語教室の運営に携わり、講師も務める。2002(平成14)年にはアイヌ語弁論大会で最優秀賞を受賞し、現在は審査員を務める。その他、各地で講演を行っている。

協力者の紹介

おお の てつ ひと
大野徹人

様似町ウタリ生活相談員。このテキストの原稿執筆を担当。

なか がわ ひろし
中川裕

千葉大学文学部教授。このテキスト作成にあたって助言。

【このテキストのアイヌ語と表記の仕方について】

このテキストでは、様似地域で話されてきたアイヌ語(様似方言)を勉強します。

このテキストの内容は、これまでの研究者・放送局による記録・研究、様似民族文化保存会・様似アイヌ語教室での調査・学習に基づいて、講師と相談しながら作ったものです。詳しいことについては34ページをご覧ください。

また、このテキストでのアイヌ語のカタカナ表記は、『アコロイタク』(北海道ウタリ協会、1994)の表記にほぼ従っていますが、小さなラリルレロ(音節末子音のr)のうち、イ段の「リ」以外のものは、様似方言で実際に聞かれる発音の傾向を考慮して、一つの試みとしてすべて統一的に「ル」としてあります。

ローマ字表記については、アイヌ語は『アコロイタク』に準じ、日本語からそのまま取り入れた言葉は社団法人日本ローマ字会の定めた表記で、英語などから日本語に入って使われている外来語はもとのローマ字の綴りで表記しています。

【様似アイヌ語教室について】

様似アイヌ語教室は、毎月第2・4金曜日に北海道ウタリ協会様似支部(様似町総合福祉センター内、東様似生活館2階)で行われています。お問い合わせは以下の連絡先をお願いします。

北海道ウタリ協会様似支部

〒058-0014 北海道様似郡様似町大通2丁目 TEL 0146-36-5656

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	日	Lesson	テ - マ	ページ
10月	1日	27	「～の○○」の言い方 その1	4
	8日	28	「～の○○」の言い方 その2	6
	15日	29	「～するもの」の言い方	8
	22日	30	「あなたたちは～する」の言い方	10
	29日	31	「あなたたち」を指す言葉	12
11月	5日	32	「私たちは～する」の言い方	14
	12日	33	「私たちは～を○○する」の言い方	16
	19日	34	もう一つの「私たちは～する」の言い方	18
	26日	35	もう一つの「私たちは～を○○する」の言い方	20
12月	3日	36	「すれば～する」の言い方	22
	10日	37	「～だろう」の言い方	24
	17日	38	「私を～する」の言い方	26
	24日	39	「～するが～する」の言い方	28
	31日	40	「～しましょう」の言い方	30

例文

1 タパン ケル アナク クケリヒ ネ。
 tapan ker anak ku=kerihi ne.
 この 靴 は 私・の靴 だ (この靴は私の靴だ。)

2 エナヌフ ソンノ ピリカ。
 e=nanuhu sonno pirka.
 あなた・の顔 ととも きれい (あなたの顔はとてもきれいだ。)

単語

アイヌ語	日本語訳
アナク anak	～は。
エ e=	あなた。
ク ku=	私。
ケリヒ kerihi	～の靴。
ケル ker	靴。
ソンノ sonno	とても、本当に。
タパン tapan	この。
ナヌフ nanuhu	～の顔。
ネ ne	～だ、である。
ピリカ pirka	きれい、いい。

言葉の解説

例文1で「靴」という意味の言葉として「ケル」という言葉と、「ケリヒ」という言葉が使われています。最初の「ケル」という言葉は、単に「靴」という意味です(文法用語では【概念形】と言いますが、このテキストでは【基本形】と呼ぶことにします)。「私の靴」、「あなたの靴」、「おじいさんの靴」などのように「～の靴」という場合には「ケリ」または「ケリヒ」という言葉を使います(文法用語では【所属形】と言います)。たとえば「私の靴」と言う場合に、最初の「ケル」に「私の」という意味の「ク」をつけて「クケル」とは言えません。「クケリ」または「クケリヒ」という言い方になります。「あなたの靴」でしたら「エ」をつけて「エケリ」または「エケリヒ」となります。「ウナルペ ケリ／ケリヒ」と言うと「お婆さんの靴」という意味になります。「ク」とか「エ」などの言葉をつけずに、単に「ケリ」または「ケリヒ」というと「その人の靴」、「彼の靴」、「彼女の靴」という意味になります。「ケリ」と「ケリヒ」は語尾に「ヒ」がつくかどうかの違いがありますが、言葉の意味は同じです。アイヌ語では単にものを指す言葉と、「～の○○」というように、それが誰かのものである場合とで、言葉が変わる場合があります。こういった言葉の使い分けは、人間の体や親族、身につけているもののほか、動物・植物はもちろん、道具などについてもあります。たとえば「マキリ ニチヒ」というと、「小刀の柄」という意味になります(ニチヒはニツ(柄)の所属形です)。例文2では「～の顔」という意味で「ナヌフ」という言葉が使われていますが、単に「顔」という場合は「ナン」という言葉を使います。「あなたの顔」ならば「エナヌ」または「エナヌフ」という言い方になりま

す。「エナン」という言い方にはなりません。「ナヌ」と「ナヌフ」は、「ケリ／ケリヒ」の違いと同様、語尾に「フ」がつくかどうかの違いで、言葉の意味の違いはありません。このように単に「○○」という場合と「～の○○」という場合、単語の発音に変化する言葉の例をあげてみます。

語尾の音がどのように変化するか、また、語尾にハヒフヘホのどれがつくのか、規則性があるのですが、これは複雑なので1つ1つ覚えるより、そのまま覚えた方が早いと思います。アイヌ語を何度も聞いたり読んだりしながら、少しずつ慣れてください。所属形は、最後にハヒフヘホがつく形と、つかない形がありますが、意味の違いはありません。

基本形		所属形			
キサル 耳	キサラ/キサラハ	～の耳	ナン 顔	ナヌ/ナヌフ	～の顔
アサム 底	アサマ/アサマハ	～の底	ラフ 羽	ラブ/ラブフ	～の羽
エトフ 髪	エトピ/エトピヒ	～の髪	カフ 皮	カブ/カブフ	～の皮
シク 目	シキ/シキヒ	～の目	ハム 葉	ハム/ハムフ	～の葉
レク ひげ	レキ/レキヒ	～のひげ	テク 手	テケ/テケヘ	～の手
ピリ 傷	ピリ/ピリヒ	～の傷	ハウ 声	ハウエ/ハウエヘ	～の声
クル 影	クリ/クリヒ	～の影	アタイ 値段	アタイエ/アタイエヘ	～の値段
フム 音	フミ/フミヒ	～の音	チャル 口	チャロ/チャロホ	～の口
マツ 妻	マチ/マチヒ	～の妻	オソル 尻	オソロ/オソロホ	～の尻

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 あなたの目は小さい。() () ()。
 シキヒ sikihi ～の目 エ e= あなた
 ポン pon 小さい
- 2 私の足はとても細い。() () () ()。
 アネ ane 細い チキリヒ cikirihi ～の足
 ソンノ sonno とても ク ku= 私

シャマニの昔話 — シャマニとサマニ —

このテキストVol.3では、「シャマニの昔話」と題して、様似のアイヌに関わる歴史や伝説などを紹介します。

この「シャマニ」とは、以前触れましたように、「様似」の古い発音です。アイヌ語起源の地名であることは確かなことなのですが、その語源についてはいろいろな説があり、はっきりとしたことは分かりません。江戸時代の文献では漢字で「射馬荷」、「砂馬荷」、「射魔尼」など、さまざまに書かれていましたが、のちに「様似」という漢字の表記が定着しました。しかし、漢字の読みは原音の「しゃまに」だったようです。戦後書かれた文献でも漢字の「様似」に「しゃまに」とルビを振ってあるものがありますので、ある時期までは漢字の「様似」をシャマニと読んでいたようです。現在でも「しゃまに」と発音するお年寄りの方がいらっしゃいます。以前触れましたように、アイヌ語ではサと発音してもシャと発音しても意味は同じですが、シャマニという音は、昔の様似を思い起こさせます。

さあ、シャマニの昔を旅していきましょう。

例文

1 クコル アチャポ エトゥフ ポロ。
 ku=kor acapo etuhu poro.
 私・持つ おじさん の鼻 大きい (私のおじさんの鼻は大きい。)

2 クマツネポ エトピ フレ。
 ku=matnepo etopi hure.
 私・娘 の髪 赤い (私の娘の髪は赤い。)

単語

アイヌ語	日本語訳
アチャポ acapo	おじさん。
エトゥフ etuhu	〜の鼻。
エトピ etopi	〜の髪。
ク ku=	私。
コル kor	〜を持つ。
フレ hure	赤い。
ポロ poro	大きい。
マツネポ matnepo	娘。

言葉の解説

例文1に出てくる「エトゥフ」は「〜の鼻」という意味ですが、単に「鼻」という場合は「エトゥ」と言います。この「エトゥ」という言葉は「エトゥフ」と同じように「〜の鼻」と言う場合に使われることもあります。レッスン17で「エエトゥ(あなたの鼻)」という言い方が出てきましたが、これを分解すると「エ・エトゥ」となります。これを「エ・エトゥフ」と言いかえても意味は同じです。「〜の鼻」と言う時は、「エトゥ」でも「エトゥフ」でもどちらでもいいのです。

例文2の「マツネポ」は「〜の娘」という意味ですが、単に「娘」という時も「マツネポ」と言います。例文のように「私の娘」という場合、「クマツネポ」と言うほか「クマツネポホ」とも言いますが意味は同じです。

また、「エトピ(〜の髪)」は「エトフ(髪)」の所属形ですが、これは、レッスン27で習った基本形と所属形の発音が変わる例です。

このように、単にものそのものを指す言葉【基本形】と、「〜の〇〇」という言い方【所属形】が、同じ発音になる場合があります。

以下に、いくつかの例をあげます。

例

基本形	所属形	基本形	所属形
フラ におい	フラ/フラハ 〜のにおい	チセ 家	チセ/チセハ 〜の家
ケラ 味	ケラ/ケラハ 〜の味	パケ 頭	パケ/パケハ 〜の頭
トゥサ 袖	トゥサ/トゥサハ 〜の袖	レ 名前	レ/レハ 〜の名前
バ 年	バ/バハ 年の年	ボ 子	ボ/ボホ 子の子
チンキ すそ	チンキ/チンキヒ 〜のすそ	マツネポ 娘	マツネポ/マツネポホ 娘の娘
ホク 夫	ホク/ホクフ 夫の夫	ミッポ 孫	ミッポ/ミッポホ 孫の孫
エトゥ 鼻	エトゥ/エトゥフ 鼻の鼻	ト 日	ト/トホ 日の日

レッスン27で習った、基本形と概念形の発音が変わるものは、語尾の音が、小さい文字(ク プ ッ シ ム リ ル)、または「ン」、「イ」、「ウ」となっているもの(ローマ字でいうと p t k s m r n y w = 子音で終わっている単語)です。

また今回例にあげたのは上記以外のもの(a i u e oの母音で終わっている単語)です。

最後のハヒフヘホは、最後の音がア段(カサタナ…)ならば「ハ」、イ段(キシチニ…)ならば「ヒ」、ウ段(クストゥス…)ならば「フ」、エ段(ケセテネ…)ならば「ヘ」、オ段(コソトノ…)ならば「ホ」と一応決まっていますが、このようなややこしい規則を覚えなくても、勉強しながら1つ1つ覚えた方が楽ではないかと思われます。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 ギョウジャンニクは匂いが強い。 () () () () ()。
- アナク anak ーは ルイ ruy 強い
 プクサ pukusa ギョウジャンニク フラハ huraha ーの匂い
- 2 私の犬の頭はいい。 () () () () ()。
- ク ku= 私 ピリカ pirka いい パケ pake 頭
 シタ sita 犬 コル kor 持つ



シャマニの昔話

ー 様似川の名前 ー

現在「様似」という地名は町の名前であり、様似川という川の名前でもあります。様似川という川のアイヌ語での呼び名は、トミエサンベツというのが本来の正しい呼び方であると岡本総吉さん、岡本ゆみさん、沢田金次郎さんらの伝承者たちは語っています。分解するとトミ=宝物、エ=そこに、サン=下りる、ベツ=川、ということになります。トミエサンベツまたはトミサンベツという川の名前は、ほかの地方に伝わるユカル(英雄叙事詩)の舞台として物語に登場するもので、川の立派さをたたえた美称のようです。

今回は『様似町史』で紹介されている岡本総吉さんによる説明を紹介します。

昔、様似で大洪水があった時に、根こそぎにされた大木が流れてきて川の中に横たわっていたのだそうです。その時、土地の調査に来た和人がこの川の名前を聞いたのだそうです。道案内をしていた地元のアイヌがとっさにサムニベツ(倒れ木の川)と答えたのだそうですが、それ以来、和人の間ではこの川をサムニベツと呼ぶようになり、それがさらにエシャマンベツ(=エサンベツ)に変わったということです。

サムニベツ→エシャマンベツ→シャマニと地名が変わったとするならば、かなり音が大きく変わったこととなります。

また、北海道では一般に「倒れ木」のことをサマムニ(=シャマムニ)と言いますが、様似ではサムニという言い方もあったようです。しかし、サムニよりはシャマムニの方が「シャマニ(サマニ)」の音に近いと思われるので、むしろシャマムニがシャマニになったという解釈もあります。

1. エシキ ポ =sikihi pon
 2. キキチク ノク ノク ノク ノク ノク ノク
 2. キキチク ノク ノク ノク ノク ノク ノク
 2. キキチク ノク ノク ノク ノク ノク ノク
 2. キキチク ノク ノク ノク ノク ノク ノク

例文

- 1 エチミナ。
eci=mina.
あなたたち・笑う (あなたたちは笑う。)
-
- 2 チェプコイキクル エチネ。
cepkoykikur eci=ne.
漁師 あなたたち・だ (あなたたちは漁師だ。)

単語

アイヌ語	日本語訳
エチ eci=	あなたたち。
チェプコイキクル cepkoykikur	漁師。チェプ=魚、コイキ=とる、クル=人。
ネ ne	〜だ、である。
ミナ mina	笑う。

言葉の解説

レッスン17で「あなたは〜する」という言い方の「エ〜」を習いましたが、今回は相手が複数で「あなたたちは〜する」という意味の「エチ〜」という言い方を勉強します。この「エチ」という言葉は「エ」同様、単独で使うことはできません。

- 例 あなたたちは肉を食べる
 × エチ カム エ。
 ○ カム エチエ。

「エ」同様、この言葉は「あなたたち」「君たち」「お前たち」などいろいろに訳せます。またこの言葉は「あなたたちの〜」という言い方にも使います。

- 例 エチテケ/エチテケへ あなたたちの手
 エチケリ/エチケリヒ あなたたちの靴
 エチケウトゥム/エチケウトゥムフ あなたたちの心

MEMO

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 あなたはたくさん歩く。()()。
 アブカシ apkas 歩く ポロンノ poronno たくさん エチ eci= あなたたち
- 2 あなたたちの顔を私は見る。()()。
 ヌカル nukar 見る ナヌフ nanuhu ~の顔
 ク ku= 私 エチ eci= あなたたち

シャマニの昔話 — シャマニの謎 —

これまでシャマニ(様似)名前の由来・変遷について触れましたが、今回はその他の説についてもう少し詳しく触れます。

北海道内に村や川、沢、山の名前など、数々のアイヌ語地名があります。その中には、その場所の地形や特徴を表していて、はっきり意味が分かるものもありますが、長年使われているうちに音が変わったりするなどして、意味や由来がよく分からなくなってしまったものがたくさんあります。小さな沢や小山ですと地形と照らし合わせて意味や由来が把握しやすいことも多いのですが、特に大きな範囲の場所を指す地名については、意味がよく分からないものが多いようです。たとえば札幌や釧路、石狩、根室などこれらの地名は明らかにアイヌ語起源なのですが、その解釈や由来についてはそれぞれいくつか説があり、定説と言えるものはなく、はっきりとしたことは分からないようです。また、おもに和人によって記録されたアイヌ語地名の記録はどうしても日本語の影響で正確ではないものが多く、アイヌ語地名を調べることを難しくしています。

様似もはっきりとしたことが分からない地名の一つです。たとえば江戸時代に北海道各地をまわりアイヌの生活や地名を記録した秦檜麻呂(=はたのあわきまろ。「檜檜」の表記もあります。または秦檜丸。本名、村上島之允)の著書(1808年)には「シャマは横と訳す。ニは木也。名義不詳。一曰くシャマニといへる女夷ありしより地名と成たり」とあります。またアイヌ語通辞(通訳)として活躍した上原熊次郎の著作にも「故事不相分」とあります。

さらに「北海道の名付け親」と呼ばれる松浦武四郎の記録にも「むかしその川口え大なる瀬流れ寄りしによって、其言を以て地名とする由伝ふ。また一説には、シャンマニなるよし。シャンとは高山、名山^{なやま}を云、マニとはマニと云し事にて、高山の有る所と訳す。又は女の遊ぎたるとも訳すと云事有。不詳。」とあります。

カワウソ説については前回触れたとおりです。また、「高山」という意味のシャン(サン)というアイヌ語については該当するものが思い当たりません。また女性の名前だという説も興味深いところです。

これら、アイヌがアイヌ語を話して生活していた時代に北海道を訪れた人たちの記録でも「不詳」であったり、人によって説明が違い、いくつもの説があることから考えると、おそらく当時すでに北海道でアイヌ語を話して生活していたアイヌにとっても、もとの意味が分からなくなっていたものと思われる。

明治以降の研究でもいくつかの解釈が出されており、アイヌ語地名の大家である山田秀三も明言は避けています。このように様似の語源について定説はありません。無理にこじつけて1つの答えを決めてしまうよりは、はっきり分からないものは分からないものとして、いろいろな解釈があることを知っておけばいいのではないのでしょうか。様似の語源についていろいろと想像をめぐらすのも楽しいと思います。いずれは研究が進展して何か分かるかもしれません。

このテキストをご覧の皆さんも、様似の語源について何か新しい解釈や発見がありましたらぜひ聞かせてください。

1. ケラフン ヌ ポロンノ オカレ ケeraan pe poronno okay
 2. シパニ ヌ タカフ アチキ ヌ エチ アカポ ヌイペ ne

例文

1 エチオカイ フランス エン エチパイエ。
 eciokay FRANCE en eci=paye.
 あなたたち フランス に あなたたち・行く (あなたたちはフランスに行く。)

2 エチオカイ アナクネ アタイコル ステーキ エチエ。
 eciokay anakne ataykor STEAK eci=e.
 あなたたちは 高い ステーキ あなたたち・食べる
 (あなたたちは高いステーキを食べる。)

単語

アイヌ語	日本語訳
アタイコル ataykor	(値段が)高い。アタイ=値段、コル=持つ。アタイエ ルイ(値段が激しい)という言い方をすることもあります。
アナクネ anakne	～は。
エ e	～を食べる。
エチ eci=	あなたたち。
エチオカイ eciokay	あなたたち。
エン en	～に。
ステーキ STEAK	ステーキ。日本語に入った外来語をそのまま使っています。
パイエ paye	行く(複数形)。
フランス FRANCE	フランス。日本語に入った外来語をそのまま使っています。

言葉の解説

今回勉強する「エチオカイ」という言葉は、レッスン22で習った「エアニ(あなた)」の仲間、単独で「あなたたち」と言う時に使う言葉です。エアニ同様「あなたたち」、「君たち」、「お前たち」などと訳すこともできます。

エチオカイがなくても文章の意味はほとんど変わりませんが、エチオカイと言うことによって「あなたたち」の意味が少し強調されます。

またクアニ・エアニ同様、文章の最後の動作を表す言葉(動詞)の前にエチをつけることを忘れてはいけません。

例 あなたたちはフランスに行く。

- × エチオカイ フランス エン パイエ。
- エチオカイ フランス エン エチパイエ。

あなたたちは高いステーキを食べる。

- × エチオカイ アナクネ アタイコル ステーキ エ。
- エチオカイ アナクネ アタイコル ステーキ エチエ。

また、レッスン10で習ったように、アイヌ語では動作を表す言葉(動詞)に、単数・複数の区別のあるものがあります。「あなたたち」というのは、複数の人たちなので、例文1のように「あなたたちは行く」ならば、「行く」の単数形「オマン」を使った「エチオマン」という言い方ではなく、「行く」の複数形「パイエ」を使って「エチパイエ」と言います。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 あなたたちはよく眠る。()()()。
 モコル mokor 眠る ピリカノ pirkano よく
 エチ eci= あなたたちが エチオカイ eciokay あなたたち
- 2 君たちは小学生だ。()()()()。
 アナク anak ～は エチオカイ eciokay あなたたち
 ネ ne ～だ エチ eci= あなたたち
 小学生 SYOUGAKUSEI 小学生

シャマニの昔話 — 古代の様似 —

様似にいつ頃から人が住んでいるのかについては、はっきりしたことは分かりませんが、縄文・続縄文・擦文の遺跡が町内で発掘されていますので、相当古い時代から人が住んでいたことは確かです。北海道内で大規模な民族の交替があったことは確認されていませんので、これらの遺跡を残した人々は現在のアイヌ民族の先祖であると考えられます。

様似町内の遺跡からは土器や石の矢じり、石斧などさまざまなものが発掘されています。中世以降、鉄の刃物を使ったマキリ(小刀)やタシロ(山刀)などがアイヌの生活の中で使われるようになりますが、それ以前は黒曜石などを使った石器を刃物として使っていたと思われます。

また中世以降、本州からの交易で木のお椀を手に入れるようになりそれが普及する前はおそらく自分たちで作った土器を使っていたことでしょう。

以前も触れましたエンルム岬の頂上には、チャシ(砦)がありますが、ここも遺跡となっていて、ここからも土器や石の矢じりが発掘されています。また、このチャシを舞台にした伝説も残されています。これら掘り出された遺物や伝説から、古代の様似に展開したアイヌの生活を垣間見ることができます。

様似町内の遺跡については、これからさらに調査が進めば新たな発見もあることでしょう。石器や土器を見ながら古代に思いをはせるのも楽しいことではないでしょうか。

例文

1 モコルアン。
 mokor=an.
 眠る・私たちは (私たちは眠る。)

2 ヌマン イシカル エン パイエアン。
 numan Iskar en paye=an.
 昨日 石狩 に 行く・私たち (昨日私たちは石狩に行った。)

単語

アイヌ語		日本語訳
アン	=an	私たちは。
イシカル	Iskar	石狩。語源は諸説あり不明です。
エン	en	～に。
ヌマン	numan	昨日。
パイエ	paye	行く(複数)。
モコル	mokor	眠る。

言葉の解説

ここでは「私たちは～する」の言い方を勉強します。
 今までに習った「ク～(私は～する)」、「エ～(あなたは～する)」、「エチ～(あなたたちは～する)」という場合には、「ク」や「エ」、「エチ」が動作や状態を表す言葉(動詞)の前につきましたが、今回勉強する「私たちは～する」という場合は、動作を表す言葉の後に「アン」という言葉をつけて「～アン」と言います。
 「アンモコル an=mokor(私たちは眠る)」、「アンパイエ an=paye(私たちは行く)」という言い方にはならないので気をつけてください。

- ・「～アン」という言い方の例をあげます。
- | | | | |
|-------|------------|---------------------------|------------------|
| アルキアン | 私たちは来る | サブアン | 私たちは(川などを)下りる |
| シンキアン | 私たちは疲れる | ※サブアンという発音になることもあります | |
| リムセアン | 私たちは踊る | ラブアン | 私たちは(高いところから)降りる |
| ハウキアン | 私たちは話す | ※ラブアンという発音になることもあります | |
| テルケアン | 私たちは跳ねる | オカイアン | 私たちはいる |
| ペウレアン | 私たちは若い | ※オカヤン・オカアンという発音になることもあります | |
| オンネアン | 私たちは年老いている | ポンアン | 私たちは小さい |
| ポロアン | 私たちは大きい | ※ポナンという発音になることもあります | |

なお、アイヌ語では「よい」、「大きい」、「若い」など、ものの状態を表す、日本語や英語などで形容詞とされている言葉はすべて動詞とされています。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 少し私たちは休む。()()。
 アン =an 私たちは
 シニ sini 休む
 ポンノ ponno 少し
- 2 白糖から私たちは来た。()() ()。
 シラリカ Sirarika 白糖
 アン =an 私たちは
 アルキ arki 来る
 ワ wa ～から

MEMO

シャマニの昔話 — 様似アイヌのウチャシクマ(言い伝え) —

ウチャシクマ(またはウチャシコマ。ウパシクマという地方もあります)とは、日本語で「言い伝え」、「伝説」というようなもので、自分の先祖の時代の出来事、事件などの物語や、地名や場所の由来を言い伝えるものです。テキストVol.1で紹介しました親子岩やアポイ岳、ホタフンベ(砂鯨)などの伝説はウチャシクマと言えるものです。

北海道には、古代から現在に至るまでアイヌ民族(およびその先祖)が代々暮らしているわけですが、時代時代で人が何らかの事情で移動して別のコタン(村)に引っ越したり、移住して新たに村を作ることもありました。車も汽車もない時代の人々は、歩いて山や川を越えたり、舟に乗って移動しました。

北海道各地には、人の移動についての言い伝えが残されています。たとえば、千歳には兄弟げんかが原因で平取から移住した人たちがいたという言い伝えが残されていますし、平取には十勝から移住した一族の伝説が残されています。

様似では、かつて白糖の庶路(しよろ)から、二人の兄弟が様似に移住して来て、兄は様似川の東側(現在の田代地区)のサロマアの村おさとなり、弟は川の西側(現在の岡田地区)のニナンナイの村おさになったという伝説が残されています(岡本総吉さん伝承)。

これ以外にも、十勝から先祖が移住してきたという言い伝えを持つ一族もいます。

例文

- 1 ドレス アンミ。
DRESS an=mi.
ドレス 私たち・着る (私たちはドレスを着る。)
- 2 ケット CD アンヌ。
kesto CD an=nu.
毎日 CD 私たち・聞く (私たちは毎日CDを聞く。)

単語

アイヌ語		日本語訳
アン	an=	私たち。
ケット	kesto	毎日。ケシ=毎、ト=日。ケシバだと「毎年」という意味になります。
ドレス	DRESS	ドレス。日本語に入った外来語をそのまま使っています。
ヌ	nu	〜を聞く。
ミ	mi	〜を着る。
CD	CD	CD(コンパクトディスク)。日本語に入った外来語をそのまま使っています。

言葉の解説

レッスン32で習った「私たちは〜する」という言い方では、動作を表す言葉(動詞)の後ろに「アン(私たち)」という言葉が付きませんが、今回は動詞の前に「アン」をつけて「私たちは〜を〇〇する」の言い方を勉強します。

言葉の順番は、以前習った「私は〜する(ク〜)」、「あなたは〜する(エ〜)」、「あなたたちは〜する(エチ〜)」と同じになります。

どうして同じ「私たち」なのに2つの言い方があるのか不思議に思われるかもしれませんが、日本語で言うと「〜を〇〇する」という場合は「アン」を動詞の前につけると決まっています。

アイヌ語では「〜を着る(ミ)」、「〜を聞く(ヌ)」、「〜を食べる(エ)」、「〜を持つ(コル)」、「〜を見る(ヌカル)」などと言うとき、わざわざ「を」に相当する言葉は使いません。しかし、こういった場合は、「を」の意味が、これらの動作を表す言葉の中に含まれていると考えます(文法用語では「他動詞」と言います)。

こういった「〜を〇〇する」という動詞を使う場合にのみ「アン〜」という言い方をします。前回習った「アン」が後ろにつく動詞は、単に「行く」、「来る」、「いる」、「眠る」のように、特に動作の対象がなく、単に動作や状態を表す動詞(文法用語で自動詞と言います)の場合です。

以下、アンが動詞の前につく場合をあげます。

例	アンエ	私たちは〜を食べる	アंक	私たちは〜を飲む
	アソル	私たちは〜を持つ	アンヌ	私たちは〜を聞く
	アンネ	私たちは〜だ	アンミ	私たちは〜を着る
	アンヌカル	私たちは〜を見る	アンヌイェ	私たちは〜を書く・彫る
	アソカル	私たちは〜を作る	アンオ	私たちは〜に乗る

最後の「アンオ(私たちは〜に乗る)」のように、「〜を」ではなく、「〜に」という意味になることも時々あるので気をつけてください。

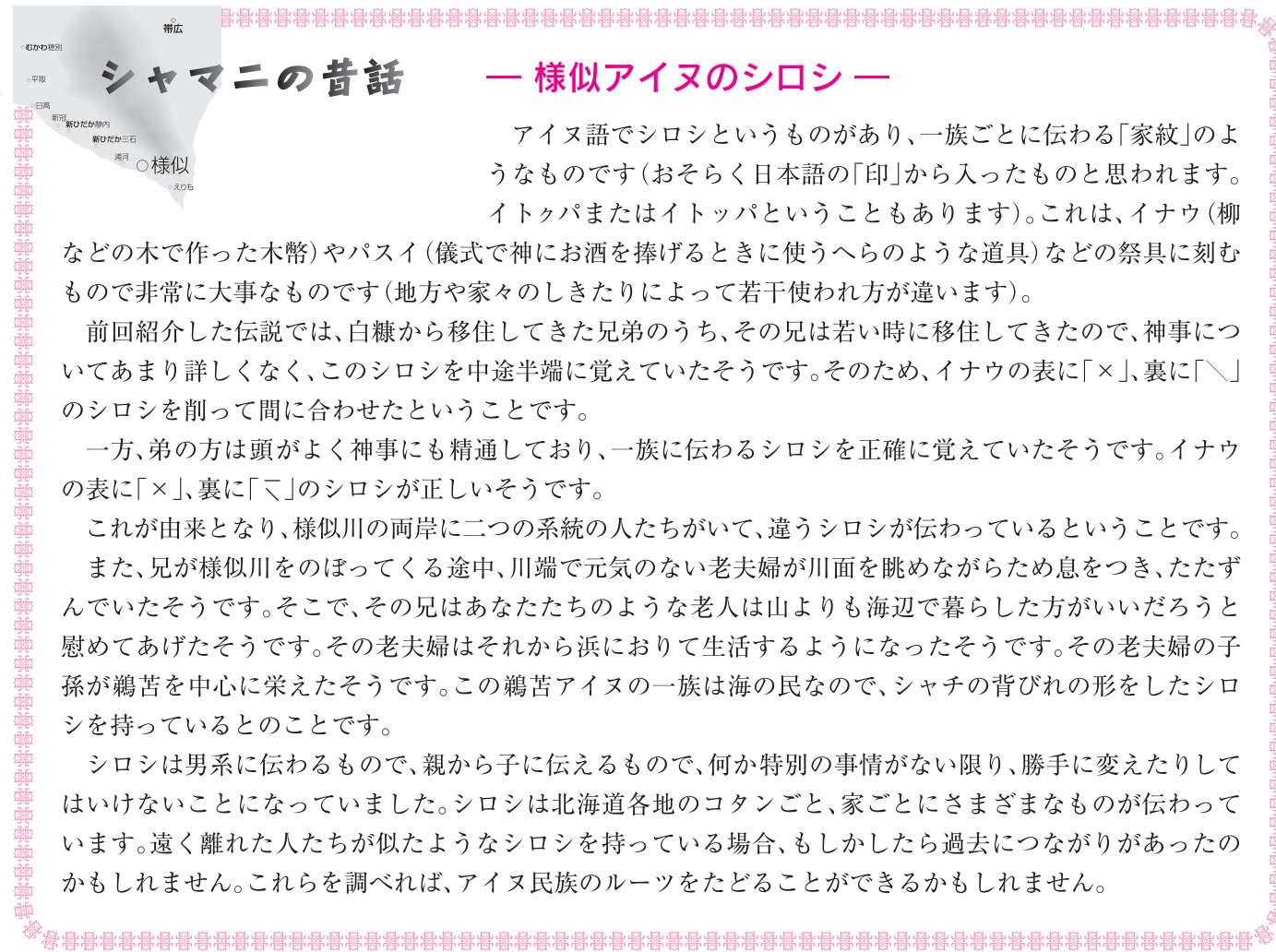
日本語ではこういう言い分けはありませんので、「アン」が前につくのか後ろにつくのか1つ1つ覚える必要がありますが、意味から推測してわかることも多いと思います。

また、このアンは、これまで習ったク・エ・エチなどと同様、「私たちの〜」というときにも使います。

例	アンシキ/アンシキヒ	私たちの目	アンバケ/アンバケヘ	私たちの頭
	アンチセ/アンチセヘ	私たちの家	アンマツネポ/アンマツネポホ	私たちの娘

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 私たちは肉を食べる。()()。
アン an= 私たちは エ e ~を食べる
カム kam 肉
- 2 私たちは少しワインを飲む。()()()。
ク ku 飲む ワイン WINE ワイン
アン an= 私たちは ポンノ ponanno 少し



シャモの昔話

— 様似アイヌのシロシ —

アイヌ語でシロシというものがあり、一族ごとに伝わる「家紋」のようなものです(おそらく日本語の「印」から入ったものと思われます。イトツパまたはイトツパということもあります)。これは、イナウ(柳

などの木で作った木幣)やパスイ(儀式で神にお酒を捧げるときに使うへらのような道具)などの祭具に刻むもので非常に大事なものです(地方や家々のしきたりによって若干使われ方が違います)。

前回紹介した伝説では、白糠から移住してきた兄弟のうち、その兄は若い時に移住してきたので、神事についてあまり詳しくなく、このシロシを中途半端に覚えていたそうです。そのため、イナウの表に「×」、裏に「\」のシロシを削って間に合わせたということです。

一方、弟の方は頭がよく神事にも精通しており、一族に伝わるシロシを正確に覚えていたそうです。イナウの表に「×」、裏に「\」のシロシが正しいそうです。

これが由来となり、様似川の両岸に二つの系統の人たちがいて、違うシロシが伝わっているということです。

また、兄が様似川をのぼってくる途中、川端で元気のない老夫婦が川面を眺めながらため息をつき、たたずんでいたそうです。そこで、その兄はあなたたちのような老人は山よりも海辺で暮らした方がいいだろうと慰めてあげたそうです。その老夫婦はそれから浜において生活するようになったそうです。その老夫婦の子孫が鶺鴒を中心にして栄えたそうです。この鶺鴒アイヌの一族は海の民なので、シャチの背びれの形をしたシロシを持っているとのこと。

シロシは男系に伝わるもので、親から子に伝えるもので、何か特別な事情がない限り、勝手に変えたりしてはいけなくなっていました。シロシは北海道各地のコタンごと、家ごとにさまざまなものが伝わっています。遠く離れた人たちが似たようなシロシを持っている場合、もしかしたら過去につながりがあったのかもしれない。これらを調べれば、アイヌ民族のルーツをたどることができるかもしれません。

例文

1 ウシケシ ワ アルキアシ。
 Uskes wa arki=as.
 函館 から 来る・私たち (私たちは函館から来た。)

2 ポロンノ アプカシアシ ワ シンキアシ。
 poronno apkas=as wa sinki=as.
 たくさん 歩く・私たち ~して 疲れる・私たち
 (私たちはたくさん歩いて疲れた。)

単語

アイヌ語	日本語訳
アシ as	私たち。
アプカシ apkas	歩く。
アルキ arki	来る(複数形)。
ウシケシ Uskes	函館。ウシ=湾、ケシ=端。函館は和名です。ウシヨルケシ(=ウソルケシ)という言い方もあったようです。
シンキ sinki	疲れる。
ポロンノ poronno	たくさん。
ワ ¹ wa	~から。
ワ ² wa	~して。

言葉の解説

レッスン32で、日本語の「私たちは〜する」に相当する「〜アン」という言い方を習いましたが、ここではそれと似たもので「〜アシ」という言い方を勉強します。

こちら日本語では「私たちは〜する」という意味になるのですが、「〜アン」の場合とは少し意味が違います。

たとえばAさんとBさんが会話をしている、Aさんが「私たち(=Aさん一家)は沖縄に行きます」と家族旅行で沖縄に行くということをBさんに話す時、この「私たち」の中にBさんは含まれていません。これはAさんの家族旅行であり、Bさんには関係のない話です。

「私たちは沖縄に行きます」という日本語をレッスン32で習った言い方で表現するならば、「沖縄エン パイエアン」となりますが、この言い方だと、関係ないはずのBさんも一緒に沖縄に行くという意味になってしまいます。

日本語では同じ「私たちは沖縄に行きます」という意味であっても、話しかけている相手、話を聞いている相手が「私たち」に含まれてない場合は「パイエアン」ではなく、「パיעアシ」という言い方になります。


たとえば、観光地などで、たまたま行き会った見知らぬ人たちに「(あなたたちは)どこから来たんですか?」と聞かれた時、例文1のように「(私たちは)函館から来ました」と答える場合は「ウシケシ ワ アルキアシ」という言い方が使えますが、「アルキアシ」が「アルキアン」だと、質問した人も「私たち」に含まれてしまうので、答えとしておかしい表現になってしまいます。

例文2は、Aさんが友人たちと遠くから歩いてBさんの家まで来て、Bさんに「(私たちは)たくさん歩いて疲れました」と言う時、この表現が使えます。これを「ポロンノ アプカシアシ ワ シンキアシ」と言ってしまうと、家で待っていたBさんもAさんと一緒に歩いて疲れた人の中に含まれていることになってしまうのです。

こういう表現の違いは日本語にないので分かりづらいかもしれませんが、アイヌ語ではよく出てくる言い方なので使い分けに慣れるようにしてください。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 私たちは一緒に食事した。()()。
 アシ =as 私たち
 イペ ipe 食事する
 ウトウラノ uturano 一緒に
- 2 明日私たちは大阪に行く。()()()()。
 パイエ paye 行く
 大阪 OOSAKA 大阪
 ニサッタ nisatta 明日
 エン en ~に
 アシ =as 私たち



シャマニの昔話

— コルポックル(ふきの下の人) —

コルポックル(またはコロポックル・コルポクウクル)とは、分解すると、コル=ふき、ポク=下、クル=人、となり、「ふきの下の人」という意味です。

コルポックルの伝説は十勝地方のものが有名ですが、様似にもコルポックルの伝説が言い伝えられています(桐田スマさん伝承)。

コルポックルは人間よりずっと小さな小人で、ニシンの群れが来ると、コルポックルは、お椀を舟にして海に出、銚子を投げて1匹のニシンをしとめます。そのニシン1匹を、村中のコルポックルが食べることができたようで、ニシン1匹がとれるとコルポックルの村は、人間の村でクジラ1頭がとれたかのように大騒ぎになったそうです。

ある日、コルポックルの少女がとある人間の家に食べ物をもらいに来たそうです。胸のあたりに小さな両手を重ねて食べ物をくれるのを待っていたそうですが、その人間はかわいいコルポックルの少女をからかおうと思い、食べ物を見せ少女に渡すふりをして、食べ物をもらおうと少女が出した手を引っ張ったそうです。

コルポックルの少女は手を引っ張られたときに腕の素肌を人間に見られたのを恥じて声をあげて泣いたそうです。それからまもなくコルポックルたちは人間の前から姿を隠してしまったということです。

十勝地方のコルポックルの伝説では、人間の村にコルポックルが食べ物を運んで助けてくれる内容になっていることが多いようですが、様似では立場が逆になっている点が興味深いですね。

例 文

1 パソコン チコル。
 PASOKON ci=kor.
 パソコン 私たち・持つ (私たちはパソコンを持っている。)

2 サラリーマン ヘンネ チネ。
 SALARYMAN henne ci=ne.
 サラリーマン ~ない 私たち・だ
 (私たちはサラリーマンではない。)

単 語

アイヌ語	日本語訳
コル kor	~を持つ。
サラリーマン SALARYMAN	サラリーマン。日本語で使われている言葉(和製英語)をそのまま使っています。
チ ci=	私たち。
ネ ne	~だ、である。
パソコン PASOKON	パソコン。日本語で使われている言葉(外来語の短縮語)をそのまま使っています。
ヘンネ henne	~ない。

言葉の解説

ここではレッスン33で習った「私たちは~を〇〇する」(アン~)のもう1つの言い方を勉強します。今回の「チ~」という表現は、「アン~」の「アン」が「チ」になったものです。これは、前回習った「~アシ」同様、話し相手・聞き手が「私たち」に含まれない場合に使うものです。例文1は、Aさんが、パソコンを持ってないBさんに対して、「私たち(たとえばAさんの家族または会社)はパソコンを持ってるとよ」と話す時に使える言い方です。もし「パソコン アンコル」と言うと、Bさんも「私たち」に含まれてしまい、Bさんもパソコンを持つ1人ということになってしまいます。例文2は、レッスン26で習った「ヘンネ(~でない)」を使った文章になっています。たとえば自営業の人たちが、誰かに向かって「私たちはサラリーマンではない」と自分たちについて説明するときこの表現を使うことができます。それを聞いている人はこの「私たち」に含まれていません。この「チ~」は、これまで習った「~アン」、「アン~」、「~アシ」などと混同しやすいので慣れるまで大変かもしれませんが少しずつ覚えてください。この「チ~」は「私たちの~」というときにも使えます。

例 チコタヌ/チコタヌフ 私たちの村 チテケ/チテケヘ 私たちの手
 チケリ/チケリヒ 私たちの靴 チミッポ/チミッポホ 私たちの孫


また、この「チ」は、合成語の中で「私たち人間一般」という意味で使われることがよくあります。

道具や生き物の名前、地名などでよく出てきます。たとえば「チェブ(魚)」も、もとは「チ・エ・ブ=私たち・食べる・もの」が語源です。その他、「チ」の使われている言葉を紹介します。

例 チカルカルペ(切り伏せ・刺繍した着物) チ・カルカル・ペ=私たち・刺繍した・もの
 チロンノブ(キツネ) チ・ロンノ・ブ=私たち・殺す・もの
 チエイワンケブ(道具) チ・エイワンケ・ブ=私たち・使う・もの
 チタタブ(鮭の頭の部分を叩いて作った料理) チ・タタ・ブ=私たち・叩いた・もの
 チノミシリ(信仰の対象になる聖地) チ・ノミ・シリ=私たち・祈る・大地(山)

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 魚を私たちは食べる。()()。
 エ e 食べる
 チエブ cep 魚
 チ ci= 私たち
- 2 私たちは若い青年だ。()()()。
 ペウレ pewre 若い
 ネ ne だ
 オツカイポ okkaypo 青年
 チ ci= 私たち



シャマニの昔話

— ガンビの神様 —

アポイ岳(マツネシリ=女山)と対になってそびえ立つピンネシリ(男山)の山中に「ガンビの神様」と呼ばれる白樺の大木がかつて立っていました。「ガンビ」というのはアイヌ語ではなく、白樺などの樺の木の仲間を指し、特に樺の木の皮のことを指す北海道弁です。

この木はかつて立派な大木だったそうですが、年月を重ねるうちに、古い衰え、1970年代には根元に近い部分を残して幹が折れ、のちに朽ち果てて姿を消してしまいました。

アイヌ民族にとって、自然のさまざまな生き物はカムイ(神)であって、立ち木もシリコルカムイ(シリ=大地、コル=司る、カムイ=神)と呼び、敬意を払ったそうで、この白樺の大木もそう呼んだそうです。岡本総吉さんによると、この白樺の巨木は、アポイの山におわす神様の杖であり、そこを通る時はイナウ(木幣)を捧げて敬意を表したということです。

この白樺の巨木はもともと地元アイヌによって崇められていたものですが、いつの頃かからか、この木にお願いすると雨が降るといって、和人の人たちも神様と崇めるようになり、しめ縄を飾りお祭りするようになったとのことです。現在は、この白樺の大木が立っていた場所の近くに小さな祠が立てられガンビの神様が祭られています。

1. ウトカラノ イマツシ uturano ipé=as
 2. ニサウオ 大阪 エン ヴリエツ nisata OOSAKA en paye=as

例文

1 エエク ヤクン クホシピ。
 e=ek yakun ku=hosipi.
 あなた・来る ならば 私・戻る (あなたが来れば私は戻る。)

2 ルヤンペ アシ ヤクン ヘンネ クオマン。
 ruyanpe as yakun henne ku=oman.
 雨 降る ならば ~ない 私・行く (雨が降れば私は行かない。)

単語

アイヌ語		日本語訳
アシ	as	降る。
エ	e=	あなた。
エク	ek	来る。
オマン	oman	行く。
ク	ku=	私。
ヘンネ	henne	~ない。
ホシピ	hosipi	戻る。
ヤクン	yakun	~ならば。
ルヤンペ	ruyanpe	雨。

言葉の解説

この課では、「(もし)〜すれば〜する」という言い方を勉強します。これは2つの文章を「ヤクン(〜ならば)」という言葉でつなぐだけなので、それほど難しくありません。

例文1ならば、あなたが来れば私は戻るが、逆に言うと、もしあなたが来ないならば戻らないということになります。例文2ならば、もし雨が降らなければ行くが、降れば行かないということです。

この「ヤクン(〜ならば)」という言葉は、どうなるか分からない、定かではないようなことについて、「もし〜ならば」という場合に使います。

たとえば「春になれば暖くなる」という場合に使うとすると、春は来るか来ないか分からないことではなく、必ず来るものなので「もし春になれば」という、「もしも」の話ではありません。こういう場合は「ヤクン」を使うと文章がおかしくなります。もし「パイカル アン ヤクン シリポツケ」と言うと、「もし春が来れば暖くなる」、つまり「春が来るかどうか定かではないけれどももし来れば暖くなる」というニュアンスになってしまいます。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 雪が降れば母はバスに乗る。()()()()()()。
 オ o 乗る アシ as 降る
 ヤクン yakun ならば ハポ hapo 母
 バス BUS バス ウパシ upas 雪
- 2 父が怒れば私は謝る。()()()()。
 イルシカ iruska 怒る ヤクン yakun ならば
 アチャ aca 父 ク ku= 私
 ヤウナシケ yawnaske 謝る

シャマニの昔話 — エンルムのイペタム(人食い刀) —

以前も取り上げましたが、様似の街のシンボルの1つと言えるのがエンルム岬です。かつて、エンルム岬のふもとに会所が作られ、本州との物流が行われ、そこを拠点に町が発展したとされています。

このエンルムの岬の頂上近くにはチャシ(砦)があり、そのチャシにまつわるこのような伝説があります。

昔々、エンルムに村おさがチャシを構えていたそうです。この村おさはイペタムというものを持っていました。イペタムというのは分解すると、イペ=食べる、タム=刀、ということになりますが、この刀は自分の意思を持ち、自ら人間に切りかかり、人を切り殺してしまうという恐ろしい武器だったそうです。このイペタムにまつわる伝説は各地に残されています。

村おさの持っているこのイペタムを奪おうと多くの人が狙っていたそうですが、ある日のこと、このチャシに攻め込んだものがいて、戦いになったそうですが、なかなか勝負がつかず、にらみ合いが続いたそうです。

ところがある朝、村おさがインカルシという、見張り台として使っている一番高い峰に登ってみると海辺川の対岸に大きな鯨が寄りあがっていて、その上空にカモメがたくさん舞い群れていたそうです。

それを見て、エンルムの村おさは大いに喜び、我先と手下たちを連れてそこに駆けつけたそうですが、それは鯨ではなく、砂を盛って作った小山でその上に小さな魚が撒き散らしてあってカモメはその魚ほしさに集まっていたわけです。これは敵の策略で、村おさたちが留守にするのを狙ってやったことでした。

村おさは大変くやしがりしましたが、すでもう遅く、留守のすきにこのイペタムは敵に奪われてしまったということです(以上、菊地岩五郎さん伝承)。

このように砂を盛って作った鯨に見せるというくだりは、以前触れましたホタフンベ(砂鯨)の伝説にもありました。このホタフンベの話に非常に似た話が別にあります。両者が和解するという結末ではなく、砂鯨を作ってそれを食料だと思って集まった侵略軍をやっつけてしまうという内容です(十勝の浦幌町の厚内というところにもまったく同じような話が伝わっています)。砂鯨で相手をだますというくだりは、このエンルムのイペタムの話と同じです。

このように伝説は、同じまたは似たような話がいろいろな人や地方に伝わっていて、比べてみると非常に面白いと思います。

1. ㄐㄨㄟㄣㄟ ㄐㄨㄟㄣㄟ ㄐㄨㄟㄣㄟ ㄐㄨㄟㄣㄟ ㄐㄨㄟㄣㄟ ㄐㄨㄟㄣㄟ
 2. ㄐㄨㄟㄣㄟ ㄐㄨㄟㄣㄟ ㄐㄨㄟㄣㄟ ㄐㄨㄟㄣㄟ ㄐㄨㄟㄣㄟ ㄐㄨㄟㄣㄟ

例文

- 1 ニサッタ ウパシ アシ ナンコル。
 nisatta upas as nankor.
 明日 雪 降る だろう (明日雪が降るだろう。)
-
- 2 オヤパ カナダ エン パイエアン ナンコル。
 oyapa CANADA en paye=an nankor.
 来年 カナダ に 行く・私たち だろう
 (来年私たちはカナダに行くだろう。)

単語

アイヌ語		日本語訳
アシ	as	降る。
アン	=an	私たち。
ウパシ	upas	雪。
エン	en	〜に。
オヤパ	oyapa	来年。オヤ=別の、パ=年。
カナダ	CANADA	カナダ。日本語に入った外来語をそのまま使っています。
ナンコル	nankor	〜だろう。ナンコロという発音になることもよくあります。
ニサッタ	nisatta	明日。
パイェ	paye	行く。


言葉の解説

この課で勉強するナンコルは、日本語にすると「〜だろう」となり、文章の終わりにつけて、未来や現在について予想や推測していること、これから起こるであろうことを表します。
 また、場合によっては、人やものに対する期待や要望の意味になることがあります。

- 例 トマコマイ エン エオマン ナンコル。
 苫小牧にあなたは行くだろう=行くように／行ってほしい。
- クイエ イタク エチヌ ナンコル。
 私の言う言葉をあなたたちは聞きましょう=あなたたちは聞くように／聞いてほしい。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 今日風が強いだらう。()()()()。
 ユブケ yupke 強い レラ rera 風
 タント tanto 今日 ナンコル nankor だろう
- 2 あなたが外に出ればあなたは星をたくさん見る(見える)だらう。
 ()()()()()()。
 ノチウ nociw 星 ナンコル nankor だろう
 ソイネ soyne 外に出る ポロンノ poronno たくさん
 エ e= あなた ヤクン yakun ならば
 ヌカル nukar 見る エ e= あなた



シャマニの昔話

うんべ

— 海辺川と鯨 —

西町を流れる川の名前です。住所としては残っていませんが、この地域のことを地元では今でも「海辺」と呼んでいます。

鯨のことをアイヌ語では一般的にフンペ(フンベ)と言いますが、ウンペ(ウンベ)と発音することもあるようです。この海辺川の「ウンベ」は鯨のことであるという言い伝えが残されています。岡本ゆみさんによると、ここにかつて鯨が何度もあがったということです。ほかにも、かつては鯨がこの川をのぼったが、途中で引っかかって戻ることができず、そのまま岩になったという言い伝えもあります。


この西町地区には、以前紹介したホタフンペ(砂鯨)の伝説に出てきた、砂を積み上げて作ったという砂山の名残だという小山が現在も残っています。今では木や草が生い茂っていますが、見ようによっては今もなお鯨の形をとどめているような気もします。

このように鯨と海辺川は密接な関わりがあるようです。なお、この川にはかつてカッパが住んでいたという言い伝えもあります。

しかし、海辺川は、江戸時代の記録では「運別(ウンベツ)川」と書かれていることが多く、これをアイヌ語の発音に即して表記すると「ウンベツ」ということになります。ベツは「川」の意味だとしても、「ウン」では意味がとれませんので、もしウンベツがこの川の名前より古い形だとしたらこの川の名前のもともとの由来は不明です。

なお、1635(寛永12)年に、この海辺川の上流で金鉱が発見され、東金山(ひがしかねやま)金鉱という金山が幕府によって開かれ、その下流のキリシタナイの街はにぎわったということです。しかし、この金鉱もシャクシャインの戦い(1669年)のあとにその入り口が隠されてしまったということです。

それから200年以上経ち、1905(明治38)年に採掘が再開され、昭和初期まで採掘が行われましたが採算がとれず事業は中止され現在に至っています。



1. ウィン アシ アクン パス オ ユブケ ヤクン クンベツ アカ イナスカ ヤクン クンベツ アカ イナスカ
 2. アシ アクン パス オ ユブケ ヤクン クンベツ アカ イナスカ ヤクン クンベツ アカ イナスカ

例文

1 クユポ エンキク。
ku=yupo en=kik.
私・の兄 私・叩く (私の兄は私を叩いた。)

2 クコル ハポ チョコレート エンコレ。
ku=kor hapo CHOCOLATE en=kore.
私・持つ 母 チョコレート 私・くれる
(私の母はチョコレートを私にくれた。)

単語

アイヌ語		日本語訳
エン	en=	私を、私に。
キク	kik	〜を叩く。
ク	ku=	私の。
コル	kor	〜を持つ。
コレ	kore	〜を〜にくれる。
チョコレート	CHOCOLATE	チョコレート。日本語に入った外来語をそのまま使っています。
ハポ	hapo	母。
ユポ	yupo	兄。

言葉の解説

今回勉強するのは「私が」ではなく、「私を(エン)」という表現です。
動作を表す言葉(動詞)の前に「エン」をつけると「私を〜する」という意味になります。
たとえば「ヌカル」は「〜を見る」という意味なので、「エンスカル」だと「私を見る」という意味になります。
また、例文2のように「私に〜する」という日本語訳になることもよくあります。

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 大きな犬が私を噛んだ。()()()。
シタ sita 犬 エン en= 私
クパパ kupapa 噛む ポロ poro 大きい

2 私のおばあさんは私を叱った。()()()。
フチ huci おばあさん コル kor 持つ
コイキ koyki 叱る ク ku= 私
エン en= 私



シャマニの昔話

— ピンネシリ沼の神様 —

アポイ岳(=マツネシリ=女山)の対になっているピンネシリ(男山)には大きな沼があり、昔からそこをのぞいたり見たりしてはならないとされていたそうです。

ある日、一人の男が弓矢とタシロ(山刀)を持って狩りに出たそうです。ところが、その日は運が悪くスズメ一羽もとれなかったそうです。そして山の中を回っているうちにこの沼に行き当たってしまいました。

男は驚いてすぐ目をつぶり、逃げ出そうとしたのですが、周りに誰もいないので、好奇心で沼のほとりに立って目を開けたそうです。そうしたところ、うっそうと木の茂る森の中に音1つなく、静かに水をたたえたその神秘の沼の雰囲気によって全身悪寒を感じて気を失ったそうです。

男が気がつくと、濃い霧が立ち込めた草原に1人倒れていたそうです。それは神様の罰で、男は大地に座り、このことを7日7晩絶対に言わないことを誓い、神様に命乞いをしたそうです。そして家に帰り、7日間何も飲まず食わず、一言もしゃべらず過ごしたということです。

その後、この沼の神様は大きくなり過ぎて沼にいたことができなくなり、山をおりて海に出たそうですが、その時すさまじい雷と稲妻、風、雨を起こしてサヌシベ川(様似東部の平宇地区にある川の名前)を洪水にして、それに乗って海に出たのだそうです。その時、2人の村人が巻き込まれて沖合いに流されてしまったそうですが、この神様は憐れみの心を持っているので人を殺すようなことなく、村人の命は助かったということです(桐田スマさん伝承)。

ほかの地方でも、山中の沼の伝説が伝わっていますが、神様の沼なので近づいてはいけないという戒めになっていることが多いようです。その神様というのは雷神となっています。この話に出てくる神様もおそらくそうでありましょう。このような伝説は、山中の神様の住む神聖な場所にむやみに人間が立ち入ってはいけないという戒めではないかと思われまます【写真は様似市街を見下ろすピンネシリ(左側)とマツネシリ(=アポイ岳、右側)】。



練習問題の解答 1. シタ フチ エン クパパ 2. コル フチ エン

例文

- 1 ウパシ アシ コルカイ シリポプケ。
 upas as korkay sirpopke.
 雪 降る が 暖かい (雪が降っているが暖かい。)
- 2 タパン キムチ チャルカル コルカイ ケラアン。
 tapan GIMCHI carkar korkay keraan.
 この キムチ 辛い が おいしい
 (このキムチは辛いがおいしい。)

単語

アイヌ語		日本語訳
アシ	as	降る。
ウパシ	upas	雪。
キムチ	GIMCHI	キムチ。日本語に入った外来語をそのまま使っています。
ケラアン	keraan	おいしい。ケラ=味、アン=ある。
コルカイ	korkay	〜が、けど。コロカイと発音されることもあります。地方によってはコルカ・コロカという発音になります。
シリポプケ	sirpopke	(気候が)暖かい。
タパン	tapan	この。
チャルカル	carkar	辛い。チャル=口、カル=当たる。唐辛子やワサビ、カラシなどのピリッとした辛さを表す言葉です。塩辛い場合はルンヌという言葉を使います。

言葉の解説


この課では、「〜するが〜する」または「〜だが〜だ」というように、「〜が」、「〜けど」という意味の「コルカイ」という言葉の使い方を勉強します。

この言葉は、今まで習った「ワ」や「ヤクン」などと同じで、2つの文章をつなぐ役割があります。この言葉もよく使われるのでしっかり練習して慣れるようにしてください。

MEMO

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

- 1 寒いが私はシャーベットを食べる。()()()()。
 コルカイ korkay 〜が ク ku= 私
 エ e 食べる メアン mean 寒い
 シャーベット SHERBET シャーベット
- 2 私たちは疲れているが踊る。()()()。
 リムセ rimse 踊る シンキ sinki 疲れる
 コルカイ korkay 〜が アシ =as 私たち
 アシ =as 私たち



シヤマニの昔話

— キリシタナイ —

様似町内の西町にキリシタナイと呼ばれる沢があります。ソピラスプ
 リ(観音山)から湧き出した水が流れ込んでいる沢です。

以前触れましたが、1635(寛永12)年に海辺川の上流で金鉱が発見され、
 幕府による採掘が行われ、川の下流域のキリシタナイの町はにぎわいを見せたということです。

このキリシタナイ付近に、天草・島原の戦いの残党、兄玉喜左衛門の一派が潜入してこの金山で働いていたとい
 うことです。

天草・島原の戦いというのは、1637(寛永14)年に長崎県为天草・島原地方で、厳しい重税などの圧制に抵抗し、天
 草四郎を首謀者として、キリスト教を信仰する民衆が立ち上がり、幕府軍と戦った戦いのことです。幕府の厳しい
 弾圧によって蜂起軍は鎮圧され、首謀者の天草四郎はじめ大勢の人が処刑されましたが、残党は各地に逃げました。

キリスト教徒のことを江戸時代はキリシタンと呼んだことから、このキリシタナイというのはキリシタンナイ
 のことで、兄玉喜左衛門らキリスト教徒が隠れていた沢(ナイ)という意味だという説があります。

しかし、江戸時代の文献などを見ますと、この沢は「キリイカシナイ」と書かれています。また明治初期には桐樞
 (きりかし)村という地名が残っていました。このキリイカシまたはキリカシをアイヌ語でありうる発音にするな
 らば「キリカシ」というような形になるでしょうか(「上」というような意味だと思われます)。

一方、キリシタナイではアイヌ語で意味を解くことができません。キリシタナイとキリスト教徒は関係ないとい
 うアイヌによる証言も記録に残っているようなので、キリシタナイという地名そのものはアイヌ語ではなく、
 おそらくこの沢のもとの名前はアイヌ語のキリカシナイまたはそれに近い音ではないかと思われます。

しかし、この地域は相当古い時代から和人が出入りしており、実際に弾圧を逃れてキリスト教徒が逃げ込んで
 暮らしていたという歴史的事実もあり、そういったことから、音が多少似ていることで、キリスト教徒が暮らす沢
 という意味で、キリシタナイという地名があらたにできたのではないのでしょうか。

兄玉喜左衛門は1644(正保元)年に幕府に発見され、江戸に送られて処刑されたとのことですが、立派な人格者
 である彼のことを、護衛や刑場の役人たちも言葉を尽くしてほめたたえ彼の不幸な運命を惜しんだとのことです。

もしかしたら、北の果てのアイヌの島、つまり現在の北海道の様似まで逃げてきたキリシタンの人たちは、当時、
 様似アイヌの人たちと何らかの接触や交流を持っていたのかもしれない。しかし残念ながらそのような記録は
 今のところ見当たらないようです。

なお、このキリシタナイの水はかつて飲み水として使われていた水で、戦後しばらくの時期まで地域の人たちは
 この沢の水を汲んで飲んでいました。

1. ポロシタ エンバシポロシタエンバシポロシタエンバシポロシタエンバシポロシタエンバシポロシタエンバシ
 2. フルシタ エンバシフルシタエンバシフルシタエンバシフルシタエンバシフルシタエンバシフルシタエンバシフルシタ
 3. フルシタ エンバシフルシタエンバシフルシタエンバシフルシタエンバシフルシタエンバシフルシタエンバシフルシタ

例文

1 イペアン ノ。
ipe=an no.
食事する・私たち しよう (食事をしましょう。)

2 ウラカ パクノ アブカシアン ノ。
Uraka pakno apkas =an no.
浦河 まで 歩く・私たち しよう (浦河まで歩きましょう。)

単語

アイヌ語		日本語訳
アブカシ	apkas	歩く。
アン	=an	私たち。
イペ	ipe	食事する。
ウラカ	Uraka	浦河。語源は不明です。
ノ	no	～しよう。
パクノ	pakno	～まで。

言葉の解説

この課では、「～しよう」という意味の「ノ」という言葉を習います。
この言葉は、「我々は～する」という意味の「～アン」という言葉の後ろにつけて、「(私たちは)～しよう」という意味になります。
「私たち」という意味の「アン」を忘れないようにしてください。
このラジオ講座の終わりの挨拶で言っている「スイ ウヌカルアン ノ！(また会いましょう！)」という言葉の最後の「ノ」も「～しよう」という意味の「ノ」です。
なお、この「～ノ」という表現は、様似・浦河での言い方で、他の方言では「ロ」または「ロク」、「ナ」という言い方になります。

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....


.....

.....

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 一緒に行きましょう。() () () 。
アン =an 私たち
パイェ paye 行く
ノ no ～しましょう
ウトウラノ uturano 一緒に

2 あそこで少し休みましょう。() () () () 。
ボンノ ponno 少し
トアンタ toanta あそこで
アン =an 私たち
ノ no ～しましょう
シニ sini 休む



シャマニの昔話

— シャモマナイ(和人のいる沢) —

現在の岡田地区を流れる小川の名前です。「シャモマナイ橋」という名前前の橋もあります。この沢の名前は日本語にすると「和人がいる沢」となります。

和人のことをアイヌ語でシサムと言います(シ=本当の、サム=隣)。また、和人を単にサム(シャム)ということもあるようです。

「シャモ」という言葉もよく聞きますが、こちらは本来のアイヌ語ではなく、シサム(=シシャム)またはサム(シャム)がなまってできたか、シャモルンクル(=サモルンクル。「本州の人」という意味です)という別の言葉が縮まってできた言葉のようです。

このシャモマナイは分解すると、シシャム・オマ・ナイ(和人・いる・沢)またはシャム・オマ・ナイのどちらかのようです。

このあたりには、砂金が出るということで早い時期から和人が入り込んだということです。もともと北海道にいなかった和人がやってきて、特にその存在が珍しくてこのような地名がついたのだと思われます。

以前触れましたが、様似にはかつて金鉱が開かれたことがあります。様似以外のところでもかつては砂金がとれるところが北海道のあちこちにあり、砂金とりのため多くの和人が本州から渡ってきたということです。

シャモマナイという地名は、北海道のいわゆるゴールドラッシュの時代を思い起こさせます。

その他、様似町内には、カニカルシという地名があり、分解するとカニ・カル・ウシ(金属・をとる／作る・ところ)となります。カニというのはおそらく日本語から入った言葉ですが、この「金属」というのは金のことであるという説があります。

1. マフ コルマシマール エ mean karkay karkay SHERBET ku=

2. シキア ヲルマシマール シンキアス karkay nise=as

アシ ¹	as	自動詞	(雨や雪が)降る。 L36、L37、L39
アシ ²	=as	人称接辞	(聞き手を含まない)私たち。 L34
アタイコル	ataykor	自動詞	(値段が)高い。 L31
アチャポ	acapo	名詞	おじさん。 L28
アナク	anak	副助詞	～は。 L27、L29
アナクネ	anakne	副助詞	～は。 L31
アプカシ	apkas	自動詞	歩く。 L34、L40
アルキ	arki	自動詞	来る(複数形)。 L34
アン	=an	人称接辞	(聞き手を含む)私たちが。 L32、L37、L40
アン	an=	人称接辞	(聞き手を含む)私たちが、私たちの。 L33
イエ	ye	他動詞	～を言う。 L29
イシカル	Iskar	固有名詞	石狩。 L32
イベ	ipe	自動詞	食事する。 L40
ウシケシ	Uskes	固有名詞	函館。 L34
ウバシ	upas	名詞	雪。 L37、L39
ウラカ	Uraka	固有名詞	浦河。 L40
エ ¹	e	他動詞	～を食べる。 L31
エ ²	e=	人称接辞	あなたが、あなたの。 L27、L29、L36
エク	ek	自動詞	来る。 L36
エチ	eci=	人称接辞	あなたたち。 L30、L31
エチオカイ	eciokay	代名詞	あなたたち。 L31
エトウフ	etuhu	名詞	～の鼻。 L28
エトビ	etopi	名詞	～の髪。 L28
エン ¹	en	格助詞	～に。 L31、L32、L37
エン ²	en=	人称接辞	私を、私に。 L38
オマン	oman	自動詞	行く。 L36
オヤバ	oyapa	副詞	来年。 L37
キク	kik	他動詞	～を叩く。 L38
ク	ku=	人称接辞	私。 L27、L28、L29、L36、L38
ケシト	kesto	副詞	毎日。 L33
ケラアン	keraan	自動詞	おいしい。 L39
ケリヒ	kerihi	名詞	～の靴。 L27
ケル	ker	名詞	靴。 L27
コル	kor	他動詞	～を持つ。 L28、L35、L38
コルカイ	korkay	接続助詞	～が、けど。 L39
コレ	kore	複他動詞	～を～にくれる。 L38
シリボブケ	sirpopke	完全動詞	(気候が)暖かい。 L39
シンキ	sinki	自動詞	疲れる。 L34
ソノノ	sonno	副詞	とても、本当に。 L27
タパン	tapan	連体詞	この。 L27、L29、L39
チ	ci=	人称接辞	(聞き手を含まない)私たちが、私たちの。 L35
チェブコイキクル	cepkoikikur	名詞	漁師。 L30
チャルカル	carkar	自動詞	辛い。 L39

ナヌフ	nanuhu	名詞	～の顔。 L27
ナンコル	nankor	助動詞	～だろう。 L37
ニサッタ	nisatta	副詞	明日。 L37
ヌ	nu	他動詞	～を聞く。 L33
ヌマン	numan	副詞	昨日。 L32
ネ	ne	デアル動詞	～だ、である。 L27、L29、L30、L35
ノ	no	終助詞	～しよう。 L40
バイエ	paye	自動詞	行く(複数形)。 L31、L32、L37
バクノ	pakno	後置副詞	～まで。 L40
ハポ	hapo	名詞	母。 L38
ピリカ	pirka	自動詞	よい、きれい、正しい。 L27、L29
プ	p	形式名詞	もの。 L29
フレ	hure	自動詞	赤い。 L28
ペ	pe	形式名詞	もの。 L29
ヘンネ	henne	副詞	～ない。 L35、L36
ホク	hok	他動詞	～を買う。 L29
ホシピ	hosipi	自動詞	戻る。 L36
ポロ	poro	自動詞	大きい。 L28
ポロンノ	poronno	副詞	たくさん。 L34
マツネボ	matnepo	名詞	娘。 L28
ミ	mi	他動詞	～を着る。 L33
ミナ	mina	自動詞	笑う。 L30
モコル	mokor	自動詞	眠る。 L32
ヤクン	yakun	接続助詞	～ならば。 L36
ユボ	yupo	名詞	兄。 L38
ルヤンペ	ruyanpe	名詞	雨。 L36
ワ ¹	wa	格助詞	～から。 L34
ワ ²	wa	接続助詞	～して。 L34

外来語

カナダ	CANADA	固有名詞	カナダ。 L37
キムチ	GIMCHI	名詞	キムチ。 L39
サラリーマン	SALARYMAN	名詞	サラリーマン。 L35
C D	CD	名詞	C D。 L33
自転車	ZITENSYA	名詞	自転車。 L29
ステーキ	STEAK	名詞	ステーキ。 L31
チョコレート	CHOCOLATE	名詞	チョコレート。 L38
ドレス	DRESS	名詞	ドレス。 L33
パソコン	PASOKON	名詞	パソコン。 L35
フランス	FRANCE	固有名詞	フランス。 L31

1. ウトルノ / パリエツノ / utureno paye=an no
2. トフツタ ポツノ シニアツノ / toanta ponno sint=an no